



200年企業（永続の知恵）（1）

おきなわFB短信（17）

（1分間で読めます。）

平成21年3月10日（火）

日本経済新聞の200年企業はなかなか面白い。

競争がベースの商売の世界は、優勝劣敗が根本のルールで、時代遅れや経営の失敗などにより弱者となった企業の存続を許さない。一方、他に秀れた方法を開発した者には事業の継続を許す。その中で200年以上も永続してきた企業には、何か他の企業にはない特徴があるに違いない。

一般的には企業の永続の条件は、いくつかある。

その理念と目的が一時的なものではなく、永続する価値でなければならない。

永続性の条件を財務の目から見ると、生産性や収益性が安定していなければならない。

生産性や収益性を安定させようと思えば、顧客の目に叶い、その支持を得ることが必要となる。

そのためには新商品、サービスの開発、販路の拡大と確立など、顧客ニーズと業務の効率化を図る社内プロセスを整えなければならない。

社内プロセス構築の成否は、人材の育成がキーポイントであり、併せて業務を支援するIT力を備える必要がある。

新聞のシリーズから、その特色を抽出すると迫力がなくなってしまうが、次頁にある通り、環境変化に対応し、新販売組織を構築するなど非連続の革新（新商品、サービスの開拓）によって、停滞を克服し、事業を拡大と高度化へ導き、企業の寿命を伸ばす。

また、経営者人事は実力本位でなければならず、違った角度から事業を検討するということで、養子によるイノベーション、或いは他との連携により事業の継続と発展を図ることも見られる。

とは言え、伝統を革新のバネに、苦境の中で、知恵を絞り、顧客と正面から向き合い、事業とブランドを守っていく気概も重要である。

200年企業一覧(1~4)

平成21年3月10日

日付	名称	創業年	創業時	現在	所在	特色	備考
(1) H20.4.16	鈴与	1801 (207)	港湾物流	同左 石油販売 航空事業	静岡市	・環境変化リスクに挑む、非連続の革新 ・石炭 合板 石油 ・壊して創る	
	三光丸本店	1318 (690)	和漢薬	配置家庭薬 メーカー	奈良県	・1889年(明32)31代目が販売業者のフランチャイズ組織を設立、非連続の革新 ・直販	
	にんべん	1699 (310)	かつお節製造	同左	東京・中央	・トップは一族でない養子が多い ・奉公人からの6代目は19世紀前半(天保期)に日本初の商品券の発行 ・番頭からの8代目は明治維新うま味を増した「本枯れ」かつお節を普及させた ・実力本位の人事 ・イノベーション	
(2) H20.4.23	金剛組	578 (1431)	寺社建築	同左	大阪・天王寺	・2006年1月1428年継続の同族経営に終止符 ・伝統を革新のバネに	
	JFLA	1665 (344)	酒造、醤油	同左 M&A	名古屋市	・創業家は、ブランドや求心力、社会との結びつきなど一朝一夕には築けない「無形資産」そのもの ・日本酒やしょうゆメーカーの再生を手がける ・前身は名古屋の清酒ねのひの盛田、神戸・灘の忠勇酒造、小豆島の丸全醤油 ・3000弱ある清酒、しょうゆメーカーのうち毎年100社超が経営破綻 ・ブランドを守り、資本と事業で連携	
(3) H20.4.30	田中製紙工業	1716 (293)	和紙問屋	製紙業 セラミックシート	美濃市	・和紙業者として、王子製紙等の洋紙業者大企業が創業したこの135年間は中小企業の存亡をかけて知恵を絞り続けた歩み ・新聞紙型用紙は6代目から8代目の三代がかりで開発し、1987年最後の一社まで供給し、日本新聞協会から感謝状が贈られた。 ・その後も非量産品に照準を絞り、現在主力のセラミックシートは1980年代に3~4年がかりで開発 ・顧客と向き合い需要を発掘 ・常に市場と向きあい、改革に挑み続ける ・王子製紙を初め東京ガス、東日本旅客鉄道、東洋紡など500社以上の「生産者優位」の時代に育ち、日本の代表となった「渋澤企業」は、しかし消費者の力が増した今、競争力の再構築を迫られている	
(4) H20.5.14	松井建設	1586 (423)	建築	同左	富山県 東京	・加賀藩の城普請が発祥 ・1961年15代目が東証に上場 ・会社は家業か、市場の公共財か	
	岡谷鋼機	1669 (340)	刃物商	鉄鋼商社	名古屋	・1995年名証に上場 ・新陳代謝がなく家族的雰囲気甘んじていた空気を一新 ・6割強の高成長、歴史にとらわれず一歩前に出る(岡谷社長)	
	ヒゲタ醤油	1616 (393)	醤油製造	同左	東京	・業界最大手キッコーマンとの資本提携 ・事業とブランドを守る	